HP Integrityサーバ Essentials Foundationパック HP Smart Setup インストレーション ポスター（Microsoft® Windows®用）

今すぐセットアップを始めましょう。新しい**Smart Setup**メディアにより、サーバ セットアップがこれまで以上に簡単かつ高速になりました。

- 使いやすいEFIベースのユーティリティを通じて、ディスク パーティションの作成を合理化します。
- 新しいブラウザ ベースのユーザ インタフェースとオンライン ヘルプ情報によって、簡単に操作をナビゲートします。
- Webから直接、またはSmart Setupメニューから 、最新のサーバ ソフトウェアにアクセスできます。
- Smart Setup メディア上に統合されたユーティリティによって、ファームウェアの更新とサーバのメンテナンスを簡単に実行できます。

詳しくは、HP Integrityサーバに関するHPのWebサイトhttp://www.hp.com/support/itaniumservers/（英語）を参照してください。

HP Integrityサーバに関する注意事項

セルベース システムの場合：この表記方法の部分では、セルベース システム（HP Integrity rx8620、rx7620、HP Integrity Superdomeなど）に関する情報を提供します。

IA-32システムのユーザは、HP Integrityサーバに初めて電源を入れる前に、以下の点に注意する必要があります。

- ビデオ出力：サーバの起動時にビデオ出力に遅延が生じます。この遅延は、1～5分の間で、サーバに搭載されたメモリの容量によって変わります。これは通常の動作です。
- リムーバブル メディア：HP IntegrityサーバのCD-ROMまたはDVD-ROMをEFI（Extensible Firmware Interface）シェルを介して使用する場合、リムーバブル メディアにアクセスするには、使用するドライブをマップ指定する必要がある場合があります。これは、DVD-ROM ドライブにメディアを入れて、EFIシェル プロンプトで`map -r`とタイプすることによって可能です。この作業は、サーバの起動後、リムーバブル メディアを入れるたびに行う必要があります。マップ指定は、EFIシェルにだけ関連した作業で、OSを通して、リムーバブル メディアにアクセスする場合は不要です。
- BLKとFS：EFIによって認識されるブロック デバイスは、blk#と表示されます。ブロック デバイスは、ハードディスク ドライブ、ハードディスク パーティション、およびDVD-ROMドライブなどのデータ ストレージを表します。ブロック デバイスに有効なファイル システムが存在しない場合もあります（例：パーティション作成されていないディスク）。EFIが有効なファイル システムを検出し、それが、`map -r`コマンドを使ってマウントされている場合、fs#デバイスと表示されます。これらのデバイスは、ファイル操作コマンドと操作で使用されます。
- マウス サポート：マウス サポートは、EFIシェルで有効になっていません。EFIシェル プロンプトでは、EFIシェル コマンドが使えます。EFIシェルで利用できるEFIコマンドは『HP Integrityサーバ上でのMicrosoft® Windows® Server 2003, Enterprise Editionの設定』および『HP Integrityサーバ上でのMicrosoft® Windows® Server 2003, Datacenter Editionの設定』に記載されています。このガイドは、HP Smart Setupメディアから参照できます。また、EFIシェルで`help`とタイプして、組み込まれているヘルプ ページにアクセスすることもできます。
- HP Smart Setup DVDの使用：HP Smart Setup メディアは、OSのインストールの前と後に役立ちます。OSのインストール前には、ハードディスク ドライブのパーティションを作成し、ファームウェアを管理し、マニュアルにアクセスするためにSmart Setupメディアを使用してEFI-Based Setup Utility（EBSU）を起動します。OSのインストール後には、HP Smart Setup メディアを使って、システムの安定性とパフォーマンスを保証するドライバ、ユーティリティ、および重要な修正ファイルをインストールします。Smart Setupは、HP Integrityサーバから使用でき、CD/DVD-ROMドライブを備えたIA-32マシンからは、いつでもマニュアルにアクセスできます。
- セルベース サーバを設定する前に、パーティション リソースがParCLIとHPのPar Commandsウィザード（Par Wrapper）を使用して適切に割り当てられていることを確認してください。この作業は、HP Integrity Superdomeをパーティション化する場合はSMS PCを使用して、HP Integrity rx8620およびrx7620をパーティション化する場合は、IA-32 PC上の管理コンソールを使用して実行できます。詳しい資料については、Smart Setupメディアを参照してください。

ディスク パーティション

以下のパーティションは、EBSUによって作成されているため、プリインストール ソフトウェア構成では作成済みの状態になっています。

ESP—EFI System Partitionには、OSを起動するために必要なローダおよびその他のファイルが含まれています。サイズは、100MBです。

HPSP—HP Service Partitionは、Offline Diagnostics and Utilities CD-ROMで提供される診断ツールを保持するために作成されます。診断ツールおよびユーザ ファイルの両方は、このパーティションにコピーできます。これらのツールを起動して、サーバのトラブルシューティングができます。HPSPのサイズは400MBです。詳しくは、EBSUの[Create Partitions Wizard]セクションのヘルプ ページを参照してください。

MSR—Microsoft Reserved Partitionは、OSソフトウェアが後で使用するために各ディスク ドライブにスペースを予約します。MSRのサイズは、ディスク ドライブのサイズに依存します。16GB未満のサイズのドライブでは、MSRは32MBとなり、16GB以上のドライブでは、MSRは128MBとなります。

WindowsからのESPへのアクセス—WindowsとESPの間でファイルを転送するには、以下の手順に従ってください。

1. Windows OSで、mountvolコマンドを使用します。
2. [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックし、**command**とタイプしてコマンド プロンプトを起動します。
3. プロンプトで、`mountvol x: /s`とタイプします。ここで、**x**は任意の未使用ドライブ文字です。これにより、x:ドライブがESPとしてマップされます。

注：ESPでの空白は制限されており、OSの起動時に必要となります。このパーティションで重要でないファイルは保存しないようにしてください。

© 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft®およびWindows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Itanium®はアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態で提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品の保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

初版（2004年2月）
製品番号 5990-6841
Printed in the U.S.A.

Smartアレイの設定

この項の手順を参照して、HP Smartアレイをブート コントローラとして設定してください。OSのインストールが完了したら、HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ（ACU）を使用して、論理ドライブの残りを設定できます。

1. HP Smartアレイ コントローラをブート コントローラとして使用している場合は、Option ROM Configuration for Arrays（ORCA）ユーティリティを使用して、論理ブート ドライブを設定できます。ORCAユーティリティにアクセスできるのは、システムの起動中だけです。起動中に画面にプロンプトが表示されたら、**F8**キーを押し（以下の注を参照）、ORCAを起動して、論理ブート ドライブを設定してください。ORCAユーティリティの使用について詳しくは、適切なHP Smartアレイ コントローラのユーザ ガイド（HP Smart Setupメディアに収録）を参照してください。

セルベース システムの場合：手動インストールまたはソフトウェア プリロード インストールの実行中、Smartアレイのオプション ROMを手動でロードする必要があります。この作業は、EFIプロンプトで**search all**コマンドを使用することによって、EFIシェルで実行できます。**F8**プロンプトが表示されます。システムをリセットせずに、設定を続行してください。

2. 論理ブート ドライブの設定が完了したら、ORCAを終了し、EFI Boot Managerから**[EFI Shell [Built-in]]**を選択して、`reset`とタイプします。OSのインストールは、再起動後に進行します。

手動インストールを実行して、**Smartアレイ6400**をブート コントローラとして使用している場合は、**OEMブート ドライバ**をロードする必要があります。最初に、EBSUを起動します（次の「手動でのOSのインストール」の項に記載された手順に従ってください）。次に、Bキーを押して、**[Load OEM Boot Driver]**を選択します。プロンプトで適切なカードを選択し、ブート ドライバをロードしてから、EBSUを終了してください。

注：リモート アクセスについては、Windows NT4やWindows 2000のTelnetおよびHyperterminalアプリケーションが、ファンクション キーにASCII文字列を正しくマップしないという問題があります。POSTの実行中、コンフィギュレーション ユーティリティを起動するには、リモート コンソールにSmartアレイ バナーが表示された後、**Esc**キーを押してすぐに**8**キーを押します。

手動でのOSのインストール

この項は、出荷時にHPによってWindows OSがロードされていないシステムをご使用の場合に参照してください。

重要：ブート コントローラに予定しているコントローラ**以外の**すべてのコントローラから大容量記憶装置を取り外してください。また、後で、これらのデバイスを再接続するために、どこに接続されていたかをメモしておいてください。これにより、正しいデバイスの取り付けがより簡単になります。

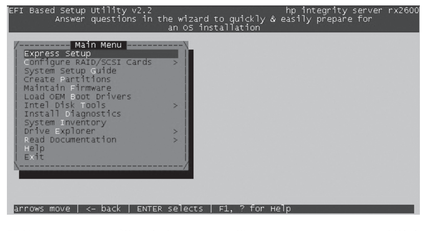
OSのインストールの準備

1. リモート アクセスを有効化します（必要な場合）。
 a. システムの背面へのローカル接続によって、MPポートのIPアドレスを設定します。ターミナル エミュレータへのヌル モデム ケーブル接続を使用します。デフォルト設定は、「9600、8、なし、1、Xon/Xoff」です。
 b. 「IPMI LAN ACCESS」が有効になっていることを確認してください。

セルベース システムの場合：手順2は不可欠です。

2. Windows ACPIを設定します。
 a. ソフトウェアやハードウェアに変更があった後や初めて起動する場合は、ACPICONFIGがWindows用に設定されていることを確認します。
 b. EFIシェルで、`ACPICONFIG`とタイプして設定を表示します。Windowsモードが有効になっていると、**acpiconfig settings: windows**と表示されます。
 c. このモードを有効にするには、`ACPICONFIG WINDOWS`とタイプします。
 d. `ACPICONFIG`とタイプして設定が有効になっていることを確認します。
 e. システムをリセットします。
3. Boot Managerでローカルのビデオ出力とキーボード入力が設定されていることを確認します。手順について詳しくは、『HP Integrityサーバ上でのMicrosoft® Windows® Server 2003, Enterprise Editionの設定』および『HP Integrityサーバ上でのMicrosoft® Windows® Server 2003, Datacenter Editionの設定』を参照してください。
4. RAIDを設定します（必要な場合）。「Smartアレイの設定」の項を参照してください。
5. Smart Setupメディアを挿入します。
6. [EFI Boot Manager]メニューから、**[Internal Bootable DVD]**を選択します。

 Internal Bootable DVDがオプションにない場合は、以下の手順に従ってください。
 a. [EFI Boot Manager]メニューが表示されたら、矢印キーを使って、エントリ**[EFI Shell [Built-in]]**を強調表示して、**Enter**キーを押して選択します。
 b. デバイス マッピング テーブルが表示されます。**CDROM**という文字を含むfsxエントリを見つけます。このファイル システムは、DVDドライブにマップされます。
 例：
      ```
      fs0:Acpi(HWP0002,0)/Pci(2|0)/Ata(Primary,Master)
      /CDROM(Entry0)
      ```
 c. シェル プロンプトで、`fs0`：（上記で見つけたエントリがfs0でない場合は、実際に見つけたエントリを使用してください。）とタイプして、**Enter**キーを押します。
 d. シェル プロンプトで、`\efi\boot\bootia64`とタイプして、**Enter**キーを押します。これにより、EFI-Based Setup Utility（EBSU）が起動し、メニューに[Internal Bootable DVD]が追加されます。
7. [EBSU]メイン メニューから、矢印キーを使って**[Express Setup]**を選択し、プロンプトに従います。



EBSUのセットアップ後、オペレーティング システムのインストールが始まる場合があります。

この時点で、RAIDが設定されています（RAIDコントローラから起動する場合）。ハードディスク ドライブ パーティション（EFI System Partition（ESP）、HP Service Partition（HPSP）、およびMicrosoft Reserved Partition（MSR））がEBSUから作成されています。

注：この時点で最新バージョンのファームウェアをサーバおよびアクセサリ カードにインストールしてあることを確認してください。新しいソフトウェアは、HPのWebサイトhttp://www.hp.com/support/itaniumservers/（英語）にあります。

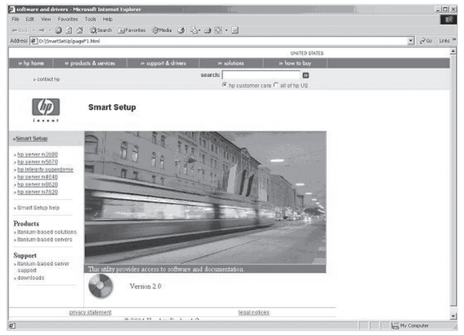
8. 高速セットアップ中に**[Launch OS Installer]**を選択した場合、EBSUはWindows OSのCDを要求し、インストーラが自動的に起動します。起動しない場合は、EBSUを終了してください。矢印キーを使用して**[Exit]**インストーラを強調表示し、**Enter**キーを押します。いずれの場合でも、次の手順に進みます。

セルベース システムの場合：セルベース システムに手動でOSをインストールする場合、手順9 は、正常に起動させるために不可欠の代替方法です。

9. テキスト セットアップ モードでのOSの初期再起動の後、GUIインストール モードが開始される前に、EFI Boot Managerエントリを変更する必要があります。この作業は、Boot Managerメニューが表示される前に任意のキーを押して、ブート シーケンスを中断することによって実行できます。EFIシェルを終了します。**novesa**スイッチを**OsLoadOptions**に追加する必要があります。スイッチを追加すると**OsLoadOptions = /redirect /novesa**と表示されます。EFIシステム パーティションの**MSutil**ディレクトリにある**NVRBOOT.EFI**ユーティリティを使用して、エントリを変更して手順を続行します。ユーティリティを終了し、EFIシェルを終了して、OSブート エントリを選択します。

Microsoft Windowsのインストール

1. Microsoft Windowsのインストール手順は、『HP IntegrityサーバEnterprise Edition用Microsoft Windows Server 2003インストレーション ガイド』に記載されています。このガイドは、HP Smart Setupメディアで提供されています。DVD-ROMドライブを備えたWindowsワークステーションにメディアを入れて、マニュアルのリンクをクリックすることにより、このガイドを読んだり、印刷することができます。
2. OSをインストールしたら、サーバをシャットダウンして、必要に応じて、先に取り外したすべての大容量記憶装置を該当するコントローラに再接続します。
3. Windows OSのインストールが完了したら、Smart Setupを使用して、ドライバを更新し、ユーティリティとInsightマネジメント エージェントをインストールします。



セルベース システムの場合：手順4は不可欠です。

4. 最大限の性能を実現するために、ParCLIを使用してメモリをCLMモードに設定することをおすすめします。

parmodifyコマンドと**parcreate**コマンドの使用方法について詳しくは、『nPartitionコマンド ライン インタフェース（ParCLI）インストレーション/トラブルシューティング ガイド（Windows用）』および『Microsoft® Windows®を使用するHP Integrityサーバ用のnPartition管理』を参照してください。

パーティションをすでに作成している場合は、parstatusコマンドを使用してメモリの設定を確認してください。たとえば、次のように入力します。

```
parstatus -p2 -V -g passwd -h myServer
```

プリインストール ソフトウェアのインストール

この項は、出荷時にHPによってWindows OSがインストールされているシステムをご使用の場合に参照してください。

最初のシステム起動

1. リモート アクセスを有効化します（必要な場合）。
 a. システムの背面へのローカル接続によって、MPポートのIPアドレスを設定します。ターミナル エミュレータへのヌル モデム ケーブル接続を使用します。デフォルト設定は、「9600、8、なし、1、Xon/Xoff」です。
 b. 「IPMI LAN ACCESS」が有効になっていることを確認してください。

セルベース システムの場合：手順2は不可欠です。

2. Windows ACPIを設定します。
 a. ソフトウェアやハードウェアに変更があった後や初めて起動する場合は、ACPICONFIGがWindows用に設定されていることを確認します。
 b. EFIシェルで、`ACPICONFIG`とタイプして設定を表示します。Windowsモードが有効になっていると、**acpiconfig settings: windows**と表示されます。
 c. このモードを有効にするには、`ACPICONFIG WINDOWS`とタイプします。
 d. `ACPICONFIG`とタイプして設定が有効になっていることを確認します。
 e. システムをリセットします。
3. サーバの電源を入れます。

 Windowsは、EMSチャネルが存在することを示すポップアップ画面を表示します（EMSは、リモート管理コンソールです。緊急管理サービス（Emergency Management Services）とも呼ばれます）。

注：起動プロセスのこの段階では、マウスおよびキーボードが機能し始めるには数分かかる場合があります。しばらくお待ちください。EMSチャネルからインストールを完了する場合は、ローカル コンソールでは何もしないでEMSコンソールから次の情報を入力します。ローカル コンソールからインストールを完了する場合は、[OK]をクリックして次に進み、ローカル コンソールから次の情報を入力します。

4. [Windowsセットアップウィザードへようこそ]ウィンドウで、**[次へ]**をクリックします。
5. [ライセンス契約]ウィンドウで、**[同意します]**、**[次へ]**の順にクリックします。
6. [地域と言語のオプション]ウィンドウで、**[次へ]**をクリックします。
7. [ソフトウェアの個人用設定]ウィンドウで、名前および組織名を正しいフィールドに入力し、**[次へ]**をクリックします。
8. [プロダクト キー]ウィンドウで、プロダクト キーIDを入力し、**[次へ]**をクリックします。このID は、ご使用のコンピュータに貼付されているラベルに記載されています。
9. [ライセンス モード]ウィンドウで、購入した適切なライセンスを選択し、**[次へ]**をクリックします。
10. [コンピュータ名とAdministratorのパスワード]ウィンドウで、コンピュータ名およびパスワードを入力し、**[次へ]**をクリックします。
11. **[日付けと時刻の設定]**ウィンドウで、正しい日付とタイム ゾーンを選択し、**[次へ]**をクリックします。サーバは再起動し、EFI Boot Managerが起動します。
12. サーバは自動的にWindowsを起動します。
13. HPマネジメント エージェントのインストール メッセージを確認します。
14. [Thanks for choosing Hewlett Packard...]ダイアログ ボックスで、**[OK]**をクリックします（このボックスは、60秒で自動的に閉じます）。
15. サーバ再起動のダイアログ ボックスで、**[Yes]**をクリックします。サーバは再起動し、EFI Boot Managerが起動します。サーバは自動的にWindowsを起動します。
16. **Ctl+Alt+Del**キーを押します。パスワードを入力して、Administratorとしてログインします。
17. **[Online Reference]**をダブルクリックします。
18. 表示される情報を読みます。必要に応じて、このセクションでオプションのユーティリティをインストールできます。

セルベースシステムの場合：手順19は不可欠です。

19. 最大限の性能を実現するために、ParCLIを使用してメモリをセル ローカル メモリ（CLM）モードに設定することをおすすめします。手順について詳しくは、『nPartitionコマンド ライン インタフェース（ParCLI）インストレーション/トラブルシューティング ガイド（Windows用）』および『Microsoft® Windows®を使用するHP Integrityサーバ用のnPartition管理』を参照してください。

HP再インストール用メディアからのOSの再インストール

再インストール用メディアからWindowsを再インストールする手順を説明します。

1. ブート コントローラとドライブを設定します。RAIDアダプタを使用する場合は、RAIDのインストレーション ガイドに従ってアダプタを準備し、RAIDタイプを設定します。

警告： インストールは、**アダプタ0**、**ドライブ0** として検出されるブート コントローラを対象にして行われます。ブート コントローラ上の1 つのコントローラを除くすべてのコントローラを取り外してから、再インストール プロセスを開始することをおすすめします。この手順を実行することにより、正しいドライブに容易にインストールできます。この手順を実行しないと、起動元にしたいデバイスをインストールできなくなる場合があります。これは、Windowsセットアップの1つの制限です。

2. DVDドライブにHP再インストール用メディアを挿入します。
3. 次のいずれかの手順を実行することにより、このメディアから起動します。

 EFI Boot Managerが表示される場合は、EFI Boot Managerから**[Internal Bootable DVD]**を選択します。表示されない場合は、**[EFI Shell]**を選択して、以下の各コマンドを入力します。
 a. DVDファイル システムを選択します（例：`fs1:`とタイプします）。
 b. `setupldr`とタイプして、ローダを起動します。
4. **[Re-install]**をクリックします。
5. 希望のパーティション サイズを選択します。
6. **[OK]**をクリックして続行します。
7. ファイルがDVDドライブからハードディスク ドライブにコピーされるのを待ちます。

注：復旧プロセスでは、99％完了状態の表示が非常に長く続きます。このプロセスが完了するまで、**サーバの電源を切らないでください。**

8. 表示されるメッセージをよく読みます。
9. ダイアログ ボックスで、**[OK]**をクリックして続行します。
10. **[Exit]**をクリックして、サーバを再起動します。
11. サーバは自動的にWindowsを起動します。
12. 「プリインストール ソフトウェアのインストール」の項で説明する「最初のシステム起動」の手順に従います。

ヘッドレスMini-Setupブート

ヘッドレス インストールは、リモート セットアップを介して実行され、ローカル キーボードおよびVGAでは実行されません。

Microsoft Windows Servers 2003（64ビット）は、起動プロセスのMini-Setup段階で、リモート コンソール ポートを使用してユーザと通信します。Microsoftは、これをEMS（緊急管理サービス）と呼んでいます。HPでは、このポートをヘッドレス コンソール ポートと呼びます。

このMini-Setup段階は、再インストール用メディアを使用してイメージを復旧した後最初にサーバを起動する際に発生します。

以下の手順では、ヘッドレス コンソールMPポートを使用して、OSの起動を行うための手順を説明します。なお、この手順には、MPカード上のLANポートまたはシリアル ポートを使用できます。

注：Windows XPでは、アクセサリ/通信フォルダにリモート デスクトップ クライアントが含まれていますが、Microsoft Windows 2000では、ターミナル サービス クライアントをインストールする必要があります。

1. ターミナル エミュレータを使用して、ターゲット システム パーティションに接続します。
2. リモート コンソールでEFI Boot Managerから**[Internal Bootable DVD]**を選択するか、EFIプロンプトでsetupldrとタイプします。
3. ヘッドレス コンソールの、SAC>プロンプトで、`cmd`とタイプします。
4. **Esc+Tab**キーを押して、新しいコマンド プロンプト チャネルに切り替えます。
5. `txtrestore`とタイプして、インストレーション メニューを起動します。
6. パーティション サイズを選択します。
7. 復旧が終わるまで待ちます。
8. コンピュータの再起動方法については、画面の指示に従います。

 システムからビデオ カードが取り外されている場合、ここで、**[Exit]**をクリックすることにより、コンピュータを再起動できます。
9. メイン コンソールまたはVGAディスプレイでは（存在する場合）、EMSが検出されたことを示すメッセージ「Click OK if you want to use the local console KB/MS.」（ローカル コンソールのKB/MSを使用する場合は、**[OK]**をクリックしてください。）が画面に表示されます。ここでは、**[OK]をクリックしないでください**。
10. リモート コンソールに移動して、SAC>プロンプトが表示されるのを待ちます。
11. **Esc+Tab**キーを押して、チャネル1に切り替えます。画面の指示に従います。

HP Insightマネジメント ツール

Insightマネジメント スイートには、業界をリードするソフトウェアおよびハードウェア機能、ツール、ユーティリティ、ならびにサービスおよびパートナーシップが含まれます。すべてのHP ProLiantおよびIntegrityサーバに同梱されるInsightマネジメント スイートは、今日のダイナミックに変化する24 時間×7 日間のコンピューティング環境における IT管理を簡素化します。Insightマネジメント製品と情報の詳細なリストについては、HPのWebサイトhttp://www.hp.com/jp/servers/manage/を参照してください。

HP Insightマネジメント エージェント

HP Insightマネジメント エージェントは、障害およびコンフィギュレーションを管理できます。HP Insightマネジメント エージェントは、ステータスを表示し、サブシステムの詳細情報に直接アクセスできるようにします。Microsoft Windows Server 2003用のHP Insightマネジメント エージェントは、HP Integrityサーバをサポートしています。

エージェントをインストールする前に、SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）をインストールしておく必要があります。SNMPサービスは、［アプリケーションの追加と削除］ユーティリティ（Windows 2003の場合は、[プログラムの追加と削除]）を使用して、Microsoft WindowsのCD-ROMからインストールできます。

注：これらのエージェントは、HP Systems Insight Manager CD-ROMには収録されていません。HP Smart Setupメディアにのみ収録されています。

HP Smart Setupメディアを使用してHP Insightマネジメント エージェントを手動でインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. OSを実行した状態で、Smart Setupメディアを挿入します。
2. お使いのサーバ モデルに対応した**[Software and Drivers]**をクリックします。
3. **[HP Insight Management Agents]**をクリックします。
4. タイトルリンクをクリックします。
5. インストレーション パッケージをダブルクリックして、エージェントのインストールを開始します。

HP Systems Insight Manager

HP Systems Insight Managerは、システムの稼動時間を最大化し、強力な監視/制御機能を提供する集中管理ソフトウェアです。HP Systems Insight Managerは、事前予防警告を提供し、サーバの障害によりシステムの予定外のダウン時間が発生する前にサーバの障害の可能性を確実に検出します。HP Systems Insight Managerはさらに、インベントリ レポート機能を提供して、サーバ資産の追跡に必要な時間と労力を大幅に削減し、システム管理者がどのハードウェアをアップグレードまたは交換すべきかを経験に基づいて判断する際に役立ちます。また、HP Systems Insight Managerは、HPのデスクトップおよびノートブック製品ならびにSNMPまたはDMIを実装した他社製デバイスを管理するためにも効率的なツールです。

注：HP Systems Insight Managerは、HP Integrityサーバにインストールすることはできません。IA-32サーバにのみインストールすることができます。

サービスおよびサポート

HPでは、Integrityサーバ導入の成功を保証する次のようなサービスの選択肢を提供しています。

- プランニング—専門の担当者が最善の戦略を決めるお手伝いをします。
- ポーティングおよびマイグレーション—熟練した支援により、マイグレーションを簡単にします。
- 実装—強力なプログラムにより、お客様の計画を実現します。
- サポート—継続的なサポートにより、成功を保証します。
- 教育サービス—Itanium®の共同開発者から学びます。

サービスおよびサポートについて詳しくは、HPのWebサイトhttp://www.hp.com/support/itaniumservers/（英語）を参照してください。

アラートおよび通知のために、サインアップならびに登録をすることをおすすめします。HPが提供するドライバおよびサポート アラートによって、お客様の製品向けにカスタマイズされた最新の情報を提供し、頻繁に要求されるニーズにお応えします。HPのWebサイトhttp://www.hp.com/go/subscriberschoice/（英語）にアクセスしてください。

Microsoft Security Bulletin Notification Serviceにサインアップすることをおすすめします。Microsoft社のWebサイトhttp://www.microsoft.com/technet/default.mspxを参照してください。また、このサイトの日本語版「マイクロソフト プロダクト セキュリティ警告サービス」も以下のURLからご利用いただけます。http://www.microsoft/japan/technet/default.mspx

Microsoftの「Windows Update」機能を使用してシステムのセキュリティを維持することをおすすめします。Microsoft社のWebサイトhttp://windowsupdate.microsoft.com/にアクセスしてください。